

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	3-(5)-エ	科学技術を担う人づくり	施策	① 科学技術の発展を担う人材の育成
			施策の小項目名	○科学技術を担う子どもの育成
主な取組	科学技術への興味関心を高める取組			
対応する主な課題	①本県の科学技術の振興及び製造業・情報通信関連産業をはじめとする本県産業の高度化に向けては、その担い手となる人材の育成・確保が重要であり、理数系大学等への進学者を増やすことは、本県のみならず全国的な課題である。そのため、初等中等教育の段階から、子どもたちに科学（数学、理科）の楽しさや奥深さを体験させ、科学に対する興味や関心を高めていくことが重要な課題である。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
子供達の科学技術に対する興味・関心を高め、科学技術・産業振興を担う人材を育成するため、以下の取組を行う。 (1) 関係機関との連携ネットワーク形成及びコーディネート (2) 出前講座等の実施 (3) 科学に関する課外活動等への支援 (4) 子供達のキャリア形成に向けた支援		10回/年 出前講座 等開催数				
実施主体	県、事業者					
担当部課【連絡先】	企画部科学技術振興課 【098-866-2560】					
		研究機関や企業、児童館等との連携による科学教育実施の支援				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況							(単位：千円)			
予算事業名 子供科学人材育成事業							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源		
一括交付金 (ソフト)	委託	38,818	40,979	-	-	-	-		OR2年度： - OR3年度： -	
予算事業名 子供科学技術人材育成事業							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源		
一括交付金 (ソフト)	委託	-	-	46,051	46,033	38,474	40,172	一括交付金 (ソフト)	OR2年度： 大学等をはじめとする県内研究機関や児童館等の関係機関との連携により、子供の成長に応じた科学教育プログラムを実施した。 OR3年度： 大学等をはじめとする県内研究機関や児童館等の関係機関との連携により、子供の成長に応じた科学教育プログラムを実施する。	

様式1(主な取組)

活動指標名	出前講座等開催数				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	65回	87回	70回	80回	60回	10回	100.0%	38,474	順調	地域や大学・研究機関等との連携により、児童を対象とした科学教室の自主開催支援や中学生及び高校生を対象とした科学教育プログラムを実施した。(児童56回、中学生3回、高校生1回)
活動指標名	—				R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 出前講座等を受講した生徒にアンケート調査を実施したところ、理科や科学が好きになった、将来科学系の進路に進みたいとの意見があるなど、子供達の科学に対する興味関心を高めることができた。 また、活動指標となっている出前講座の開催回数の実績は60回となっており、計画値を大幅に上回っていることから順調と判定した。
	—	—	—	—	—					
活動指標名	—				R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—					
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和2年度 of 取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> 大学や企業等と連携し、課題解決に向けた意見交換会や討論会等の実施により、科学に対する理解を深めるとともに理系研究者にとって必要な能力(科学的な思考力や判断力、コミュニケーション能力、説明能力等)の養成を目的とした取組を強化する。 離島の子供達を対象とした科学教育プログラムの確立を目指し、地域の主体的かつ継続的な科学教室等の自主開催に向けた支援を強化する。 						<ul style="list-style-type: none"> 県内大学や沖縄高専等との連携により、科学技術や産業振興に関する実践的な科学体験プログラムを企画し、中学生は、IT・ロボット、健康・食品、環境の3講座、高校生は脳科学、遺伝子科学、総合科学の3講座を実施した。また、児童を対象としたプロジェクトでは、科学教室自主開催に向けた研修会等を実施した。 これまで児童を対象とした科学教室等の開催が無かった北部離島や八重山諸島地域において、地域の児童館等を対象とした説明会を行うことにより科学イベントの開催を実施した。子供達の科学に対する興味・関心を高めるとともに、児童館職員等を対象とした研修会を実施し、地域での自主開催に向けた取組の支援を行った。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

- ・ 子供達の科学に対する興味・関心を高め、理系進学率等をさらに向上させるためには、科学技術に関するキャリアデザイン形成に繋がる取組及び理系研究者にとって必要な能力を養成するプログラムの開発及び実施が求められる。
- ・ 子供達が科学に対する興味・関心を高める機会に参加するきっかけを創出するために、未就学児世帯に対しても科学教室を実施する等、子供を持つ世帯に向けた啓発が求められる。

○外部環境の変化

- ・ 沖縄県本島では、各地域自治体や大学、企業等が主催する科学イベント等が増えつつあるのに対し、離島地域では未だ、子供達が科学技術に触れる機会が少ない状況である。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の流行による移動自粛のため、特に離島地域の子供達の科学イベント等への参加が難しい状況にある。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・ これまでに実施している科学技術に関するキャリアデザイン形成に繋がる取組をさらに強化するとともに、理系研究者にとって必要な能力 (科学的な思考力や判断力、コミュニケーション能力、説明能力等) を養成するプログラム開発および実施を行う。
- ・ 離島地域及び未就学児世帯を含む沖縄県内の子供達が科学に触れる機会を増やすため、引き続き科学教室等の講師育成及び開催支援を実施し、地域の主体的かつ継続的な科学教室等の開催を促す必要がある。また、移動制限がある中でも取組を実施できるようオンラインの活用を検討する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・ 大学や企業等と連携し、課題解決に向けた討論会等の実施により、科学に対する理解を深めるとともに理系研究者にとって必要な能力 (科学的な思考力や判断力、説明能力等) の養成を目的とした取組を強化する。
- ・ 離島および未就学児を含む子供達を対象とした科学教育プログラムの確立を目指し、地域の主体的かつ継続的な科学教室等の自主開催に向けた支援を強化。また、オンラインを活用したプログラム提供を実施する。